

英語教育リーディングスクール推進計画

北九州市立ひびきの小学校
英語教育リーディングスクール推進委員会

【英語教育リーディングスクールの概要】

1. 英語教育推進指定校の研究内容

○概要

小学校1年生から中学校3年生までの英語科学習が円滑につながり、4技能がバランスよく身につき、特に「話すこと」に重点をおいた児童生徒の英語力やコミュニケーション能力の向上についての教育課程および具体的な指導方法について研究開発を行う。

○実践テーマ

「豊かな国際感覚を身につけ、コミュニケーションへの積極的な態度と確かな英語力を育成する小中一貫の外国語教育の実践」

～発達段階に応じた4技能の活動をバランスよく取り入れ、特に「話す」「書く」に重点をおいた、児童生徒自身が英語力の定着を自覚することができる指導の実践～

※特に次の3点を中心として、上記テーマに取り組む。

- ①小学校6年間及び小中学校9年間を通してのカリキュラムの見直しと計画・立案
- ②効果的な学習内容・指導形態の在り方の研究・実践
- ③児童生徒自身が英語力の向上を自覚することができる評価方法の研究・検討

○リーディングスクールとしての取組

第Ⅰ期（平成29年度～平成30年度）

現行の学習指導要領及び新学習指導要領に則った教育課程の中で、以下の2点につき研究する。

- ①9年間で（1）導入期（小1～2）、（2）体験期（小3～4）、（3）接続期（小5～6・中1）、（4）学習期（中2～3）に分け、学びの連続性を踏まえた効果的な指導方法を研究する。
- ②校内体制の構築と指導力向上のための研修を行い、4技能のバランスのとれた、特に「話すこと」「書くこと」に重点をおいた実践研究に取り組む。

第Ⅱ期（平成31年度～平成33年度）

新学習指導要領先行実施及び全面実施を受けて、英語4技能によるコミュニケーション能力を確実に身に付けるための「北九州英語力向上プログラム」を作成・実施し、全市に普及させていく。

2. 研究組織の役割

○リーディングスクール推進委員会

- ・小中を通じた学びの円滑な接続のためのカリキュラム作成
- ・小学校低学年における、英語への興味関心を高める指導法の研究
- ・小学校中学年における、「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の育成のための活動、教材、指導法の研究
- ・小学校高学年における、「読む」「書く」を含めた4技能の活動、教材、指導法の研究
- ・評価方法、評定についての研究

【ひびきの小学校英語教育リーディングスクール推進計画】

1. 研究の目的と仮説

(1) 本校の研究主題

英語に触れ英語に親しみ、積極的に他者とコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

(2) 研究仮説

＜仮説1＞小中学校の発達段階に応じて、的確な4技能活動を取り入れていけば、児童生徒の英語の力が高まるであろう。

＜仮説2＞指導方法、教材・教具及び評価方法を工夫すれば、児童生徒の英語に対する関心・意欲が増し、個々の英語の力が高まり、また積極的に他者とコミュニケーションを図ろうとするであろう。

(3) 本校英語（外国語）科としての考え方

- (1) 人として心身ともに成長していくこの時期に、外国人や異文化と触れることで「自分の意思を、自分の言葉で正しく伝え、相手との思いを繋ぐ」ことの大切さを感じる必要がある。
- (2) 英語が単なる机上の「学習」として終わるのではなく、実際に日常生活で活用し、英語を通して他者とコミュニケーションを図る楽しさを感じることができるようになる。
- (3) 英語や外国人と触れ合う機会が多ければ、児童本人による自己表現の場が広がり、自己表現能力が高まり、他者だけでなく自身をも大切にすることができるようになる。

2. 研究推進計画

(1) 平成29年度の実施の方向性について

- ・平成30年度以降の内容を見据え、【学習の目標】【教育課程】【評価】の実施に向けての準備期間とする。
- ・児童、教員ともに外国語（英語）・ALTに慣れること、外国語活動や英語体験活動における授業のイメージをもつことを重視する。
- ・T1としての外国語活動や英語体験活動の授業の進め方や指導・支援の在り方を、実践を通して身に付けていく。

具体的な取組

【第1学期】

- ①英語リーディングスクールの概要や趣旨を理解するための研修を実施する。
 - ・英語教育の在り方や英語教育リーディングスクールについて、教職員の共通理解を図る。
- ②教員が授業をイメージしやすくなるように、研修を実施する。
 - ・ALTによる教室英語の研修等を通して、教員とALTとの連携を深めていく。
 - ・教員がそれぞれのアイデアや教材・教具をもちよって、授業づくりや指導方法などの研修を行う。
 - ・電子黒板などについての研修や、Hi, friendsなどの教材に関する研修を行う。
- ③評価規準や評価方法（評定）についての研修を行い、教員の理解を深める。
- ④校内の環境整備を行う。（イングリッシュ・ルーム、教室廊下掲示物等）※長期休業などを活用可
- ⑤朝・昼の放送で英語の歌や豆知識を全校に流し、1日1回は必ず全児童が英語を耳にする機会を設ける。

【第2学期】

- ①校内の環境整備を行う。(校内掲示物)
- ②1学期の反省や改善点を踏まえて、各学年において英語体験活動や外国語活動授業実践を行う。
 - ・1学期に引き続き、1～4年生については「話す」「聞く」ことを中心とした実践を行う。
 - ・5、6年生では、ひびきのタイムを活用して、1学期に重点をおいた「書く」ことだけでなく、「読む」ことについても取組を計画する。
- ③朝・昼の放送で英語の歌や豆知識を全校に流し、1日1回は必ず全児童が英語を耳にする機会を設ける。
- ④評価規準や評価方法(評定)についての研修を行い、研究・試行期間とする。

【第3学期】

- ①2学期までの反省や改善点を踏まえて、各学年において英語体験活動や外国語活動授業実践を行う。
- ②朝・昼の放送で英語の歌や豆知識を全校に流し、1日1回は必ず全児童が英語を耳にする機会を設ける。
- ③評価規準や評価方法についての研修を行い、来年度に向けての研究・試行期間とする。

(2) 平成29年度の内容及び取組について

◇意欲的に異文化や外国語に触れるとともに、国際共通語としての英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童生徒を育成するために、以下の取組を行う。

- ①小学校低学年・・・異文化や外国語を学ぶ素地作り【外国人や英語に触れる】
- ②小学校中学年・・・外国語を知る【「聞くこと」「話すこと」を中心に外国語を知る】
- ③小学校高学年・・・外国人や英語に慣れ親しむ
【中学校英語への円滑な接続のため、「読むこと」「書くこと」にも慣れ親しむ】
- ④中学校・・・英語を使って積極的にコミュニケーションを図る【使える英語の実践】

◇教育課程(平成29年度時数予定)

学年	活動名	活動時数	活動内容
1・2年生	英語体験活動	年間 6時間程度	裁量の時間を活用
3・4年生	外国語活動	年間 35時間程度	・外国語活動の時間(35時間)
5・6年生	外国語活動	年間 70時間程度	・外国語活動の時間(35時間) ・ひびきのタイム(1回15分間×週3日)
中学校1～3年生	英語科	年間140時間	週4時間

(3) 指導体制について

○英語科配置

- ・英語教育推進教員・・・授業方法・教材についての助言、指導案作成
- ・ALT、日本人英語指導助手・・・授業における指導助手

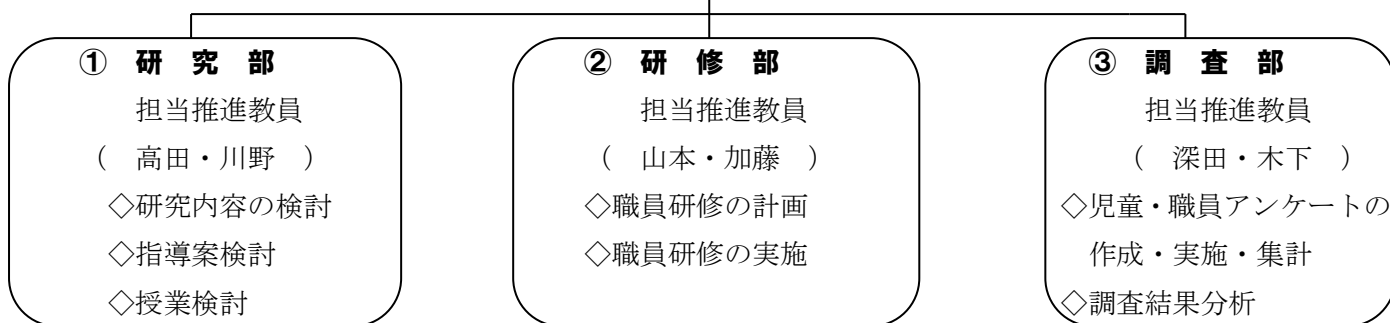
※1学期 : ALT 1名と日本人 ALT 1名が光貞小学校との隔週配置

2学期～ : ALT 2名常駐

3. 本校における英語教育リーディングスクール推進活動

(1) 校内研究組織

英語教育リーディングスクール推進委員会
推進委員長：居蔵 研究主任：楢崎



※環境整備については、各学年で掲示担当箇所を決め、推進委員会から提案された掲示物などを作成していただく。また、児童の生活サポート委員会の活動としても整備を行う。

(2) 具体的な取組

①授業に関する取組

- 低学年については、裁量の時間などを活用して、英語絵本の読み聞かせ、英語の歌やゲームなどの活動を取り入れた、「英語に親しみ、ALT と触れ合う」ことを目標とする。
- 中学年については、週1時間の外国語活動を通して、「外国語を知る」ために「聞く」「話す」活動を実践する。
- 高学年については、週1時間の外国語活動および、ひびきのタイム（15分間×週3回）を実施して、「Hi, friends」と「Hi, friends Plus」等を効果的に活用して、外国人や英語により慣れ親しむために「読むこと」「書くこと」の活動を実践する。

②英語への興味・関心を高めるための環境整備

- イングリッシュ・ルームや各教室、廊下など学校の至る所に英語の文字や表示を掲示、視覚化することで、児童が英語に触れる機会を増やし、英語学習に対する意欲・関心を促す。
- ICT環境（電子黒板、無線LAN環境等の整備）等の積極的かつ有効的な活用を行う。
- 英語大型絵本、英語教具などの必要備品を選定、活用する。

③児童及び職員の意識調査の実施及び分析

- 児童及び教員対象に行う「英語教育に関する意識調査」の内容を検討、作成する。
- 意識調査の実施、集計を行い、その結果を分析する。

(3) 各部の活動計画（案）

①研究部

- 研修内容の検討・計画立案
- 各学年の英語体験活動、外国語活動の計画、準備
実践、実践記録の作成

②研修部

- 職員への研修計画の計画及び実施

③調査部

- 児童及び職員対象の意識調査の内容検討及び作成
- 調査実施及び集計、調査結果分析



(4) 実証授業（構想）

- 同学年研究を基本とする。
- 全学級担任は、年に一度以上授業公開（互見授業）研修を行う。
- ※A研（全教職員参加）・・・年3回（研究主任・中学年・高学年）
授業・協議会・講話（講師を招聘する。）
- ※B研（近接学年参加）・・・年3回（1年生を除くA研をしていない学年）
授業・協議会・講話
- ※C研（同学年1名以上参加）・・・A研・B研をしていない学級
授業・協議会

(5) 研究日程

- 6月 7日（水） 本年度の研究体制及び授業研の計画
本年度の研究の方向性について提案並びに協議
A研授業日検討
- 6月30日（金） **第1回 A研 6年1組 6校時**
- 7月～1月 授業実践研究
- 2月 研究のまとめ
本年度研究の反省・来年度の研究の方向性

A研・B研 授業予定日

- 9月20日（水） 5校時 3年 4組 （A研）
- 10月 4日（水） 5校時 学級 未定 檜崎先生（A研）
- 10月12日（水） ひびきのタイム 2年 1組
- 10月18日（水） 5校時 4年 4組
- 11月22日（水） 5校時 5年 2組

【6年1組授業風景】

